

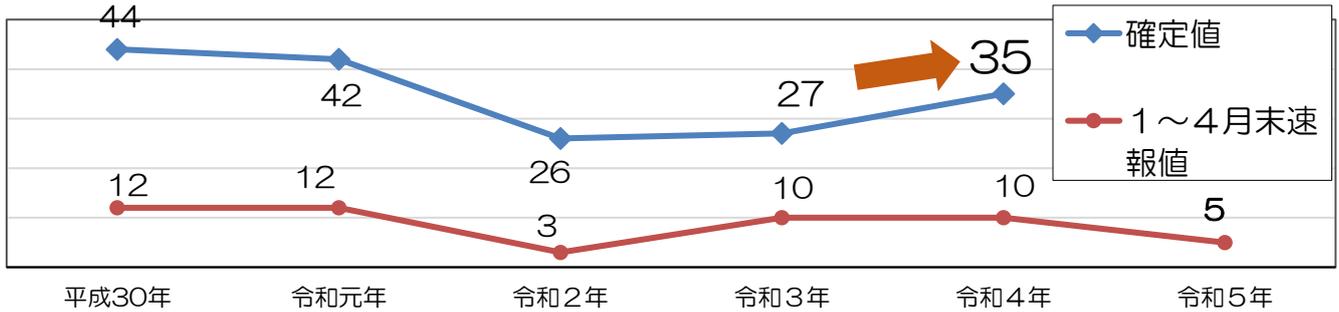
建設業の労働災害を防止しましょう！！

in 松阪&多気地区

松阪労働基準監督署では、令和4年における休業4日以上死傷者数 240人未満を目指して、『アンダー240』をスローガンとし、労働災害防止対策を推進してきましたが、令和4年の休業4日以上死傷者数は273人となり、前年の249人より24人増加し、目標には届きませんでした。

建設業では、令和4年の休業4日以上死傷者数が**37人**であり、前年から8人増となっています。また、各年の1～4月までの速報値で比較すると、令和5年は若干落ち着きを見せていますが、予断を許さない状況となっています。『アンダー240』達成のため、さらなる労働災害防止に対する取り組みが必要です。

図Ⅰ 建設業における労働災害発生状況の推移（平成30年～令和5年4月末速報値）

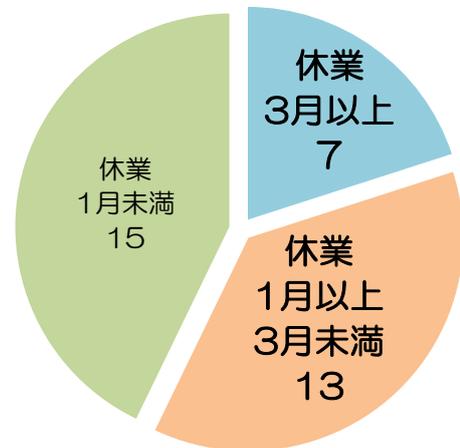


令和4年は、建設業では、建築工事業で15人と、最も多くの労働災害が発生しました（図Ⅱ）。また、休業1か月以上の重傷を負った方が57%であり、大きな災害に繋がりがやすい傾向があります（図Ⅲ）。

図Ⅱ 令和4年建設業工種別内訳



図Ⅲ 令和4年建設業災害被災程度別内訳



図Ⅳ 建設業における主な事故型別



墜落災害が最多

建設業での労働災害は、「墜落・転落」災害が多く、毎年2番目に多い事故の型の2倍以上発生しています。令和4年の墜落場所は、「はしご等」が8件、「仮設物・建築物等」が3件、「トラック」及び「建設用機械」が2件となりました。

「墜落・転落」災害の対策を中心に、安全衛生活動を推進してください。



松阪労働基準監督署は、安全・安心な職場づくりを応援します。

(R5.6)

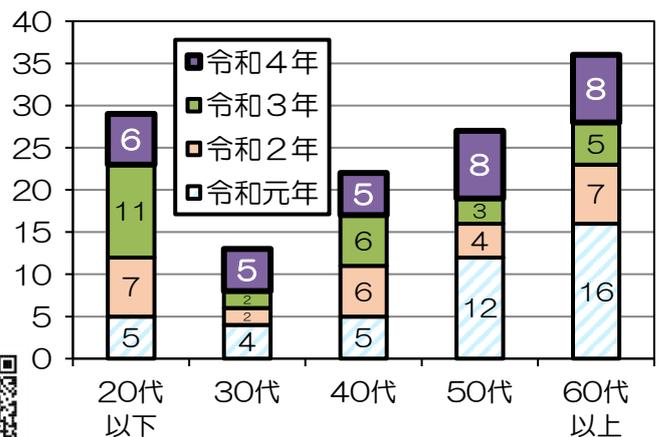
墜落・転落対策 チェックリスト

はしご	脚立
<input type="checkbox"/> はしごの上部・下部の固定状況を確認している	<input type="checkbox"/> 脚立は安定した場所に設置している
<input type="checkbox"/> (はしごをボルトで取付けている場合) ボルトが緩んだり腐食したりしていない	<input type="checkbox"/> 開き止めに確実にロックをかけた
<input type="checkbox"/> はしごの上端を、上端床から 60 cm以上突出している	<input type="checkbox"/> ねじ、ピンの緩み、脱落、踏みさんの明らかな傷みはない
<input type="checkbox"/> はしごの立て掛け角度は、75 度程度となっている	<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもをしめている
<input type="checkbox"/> はしごの踏みさんに、明らかな傷みはない	<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくいものを履いている
<input type="checkbox"/> はしごの足元に、滑り止め（転位防止措置）がある	<input type="checkbox"/> 身体を天板や踏みさんに当て、身体を安定させる
<input type="checkbox"/> 靴は脱げにくく、滑りにくい	<input type="checkbox"/> 天板上や天板をまたいで作業をしない
<input type="checkbox"/> ヘルメットを着用し、あごひもを締めている	<input type="checkbox"/> 作業は 2 段目以下の踏みさんを使用する（3 段目以下がよりよい）
リーフレット「はしごを使う前／脚立を使う前」はこちら → 	<input type="checkbox"/> 作業は頭の真上でしない
	<input type="checkbox"/> 荷物を持って昇降しない

未熟練労働者と高齢労働者を中心とした安全対策を！

建設業の労働災害は、令和元年からの4年間の合計で、60代以上が最も多く、50代と合わせると、**全体の半数**を占めています。また、20代以下では、**全体の約2割**を占めています（図V）。
 高齢労働者に対しては、加齢に伴う身体・精神機能の低下を踏まえた対策を実施していくこと、若年労働者に対しては、職務経験3年未満の未熟練労働者が多いことから、災害防止の基本を身に着けさせるため、安全衛生教育の徹底をはじめとした対策が重要です。

図V 建設業災害年齢別内訳（令和元年～3年）



パンフレット「～働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場づくりを進めましょう～」はこちら → 

令和4年死亡災害発生状況（三重県 建設業）

NO.	発生日	業種	被災者		事故の型	起因物	発生状況
			職種	年代			
1	2月	木造建築	大工	50代	墜落・転落	仮設物建築物構築物等	被災者は、新築の建築工事現場において、地面から高さ3.85mに長さ4m、幅0.3mの作業床を設け、石膏ボードを張っていた際、作業床から地面に墜落した。
2	8月	土木工事	作業員	70代	高温・低温物との接触	環境等	除草作業を行っていた被災者が倒れているところを発見され、熱中症による死亡と診断された。
3	9月	土木工事	土工	30代	高温・低温物との接触	環境等	被災者は、軽作業に従事中、体調を崩したため先に帰るよう指示された後、駐車場で仰向けに倒れていたところを発見された。
4	11月	土木工事	作業員	40代	崩壊・倒壊	材料	被災者は、荷卸したL型擁壁が倒れ、他の擁壁との間に挟まれた。
5	11月	その他	作業員	30代	崩壊・倒壊	環境等	被災者は、ボイラーの排ガス冷却塔内において、堆積物を除去する作業を行っていたところ、崩壊した堆積物に埋もれたもの。
6	11月	その他	作業員	50代	崩壊・倒壊	環境等	被災者は、ボイラーの排ガス冷却塔内において、堆積物を除去する作業を行っていたところ、崩壊した堆積物に埋もれたもの。